

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070402138		
法人名	有限会社 笑和 一ノ庄		
事業所名	グループホーム笑和		
所在地	北九州市小倉北区泉台2丁目7番19号 (電話) 093-651-5982		
自己評価作成日	令和 元 年 12 月 8 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一年間の外出レクを計画しヶ月の予定を各利用者さんと共有しながら皆さんと外出する様にしています。調理に関しても管理栄養士や栄養士も居ないため自社で買い物に行き職員が目で食材を選んで利用者さんに安全な美味しい調理を提供する様に心がけています。利用者さんの生活も自分ペースで皆さんと毎日楽しく過ごせるように務めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 元 年 1 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街の中に位置し、木造2階建て（2ユニット）で設置している。「和やかな笑いのある、みんなの家」を理念として家庭的な雰囲気を感じる室内である。近隣には市民センターがありセンターの行事などの情報は回覧板から情報を得て、行事に参加する予定である。地域住民との関わりで、自治会長から事業所のお知らせを発信していただき、事業所で行われる行事の参加を促している。お食事ではすべて事業所での手作りであり、食材などは入居者と一緒に行き物に行くなど家庭的な支援を行っています。職員の勤続年数も長く、人間関係も良好であり、コミュニケーションを図りながら、介護サービスの提供を行っている。利用者の尊厳を尊重しながら、落ち着いた時間を過ごせるよう支援を行っている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と介護者が共に共感し毎日を穏かに過ごせるように務めています。介護理念に関してもリビングと調理場と玄関に掲示し職員で共有しながら実行しています。	「ゆったりとした時の流れの中で、思い思い過ごす毎日。無理せず、つくらず、自分らしく」と事業所独自の理念を事業所内に掲げている。職員は、利用者と一緒に食事などを行い、日常生活を送る中で人生に寄り添いながら、その人らしい生活ができるよう日々の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に一回の第3土曜日は外部から歌の先生をご招待（ボランティア）で交流を深めています。年間のイベントやレクなども地域の方々にお知らせし参加も呼びかけています。	町内自治会に加入している。町内から回覧板が回って町内の行事は把握している。施設行事については自治会長へ事業所通信を配布しお知らせや参加を促している。外部から歌唱クラブの講師を招いてユニット間の交流は出来ている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	偶数月の第2木曜日は運営推進会議や地域とのふれあいイベントに参加し顔なじみになり協力を得ている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご家族の参加もあり実際に起きた出来事や各利用者の生活状況を直接お話をしながらご意見等を聞きながら参考にしています。	運営推進会議は、家族・町内会長・地域包括支援センター職員・法人担当者及び管理者の参加を得て偶数月に開催されている。運営状況・事故報告・入居状況の報告を行い議事録を作成している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議に出席している包括支援センターの職員や町内会長をはじめ事業所の取り組みなどを詳しく説明し協力関係を築き介護サービス相談員も派遣している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席を得ており、事業所の実状（事業所内事故報告・行事など）を共有している。参加者からアドバイスをいただいている。行政主催の研修参加情報などの相談を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開閉出来る様に心がけ開閉センサーを取り付けるなどリスクを軽減し利用者を拘束、抑制しないケアに努めている。	屋間は玄関の施錠はしていない。事業所の方針として「身体拘束は原則行わない」を職員全員が理解しており、家族への理解・協力も得ている。職員の身体拘束廃止や虐待防止の意識を向上する為に、内部研修を開催し、職員全員に資料を配布し、理解を深めている。管理者は、外部研修に参加をし、身体拘束しないケアについて報告書を作成し、職員全員がその資料を確認している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修で高齢者の虐待について職員同士で意見を交換しあうなどお互いに注意しながら努めています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者さんに当該するものは居らず今後の課題と認識している。	権利擁護・成年後見人制度については、入居時に説明を行っている。職員も理解出来るように行政から資料を収集し、資料に基づき、内部研修を開催し、事業所玄関に権利擁護の制度について分かりやすい資料を設置している。 見学時も後見人制度及び権利擁護の説明を行い、いつでも活用できるように支援をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設での対面契約にしていますのでその場で意見や疑問点を即答し解決や納得されるように努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営や規則に関しては日ごろから利用者さんに説明しご家族に関しては来所時に意見やご要望を確認するように努めている。	意見箱は玄関に設置している。 外部からの介護相談員が毎月1回事業所を訪問して、フロアで利用者と面談を行っている。 家族からの要望・意見については、事業所面会時に伺っている。要望などがあつた際は、その都度、管理者に報告し対応している。 運営推進会議での意見も取り入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーを中心としたミーティングや意見交換を設けまず管理者に報告し意見を反映するように努めている。	各ユニットに責任者を配置している。 職員との連絡事項は、朝・夕方に申し送りを行い、意見を聴取している。 SNSを活用しており、利用者の状況や事業所内での問題点を発信出来る仕組みを取り入れている。管理者はその意見に対して、個別対応する等、職員からの意見を反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績を踏まえ適切な評価を心がけ働きやすい環境と個々の事情や条件を聞き入れて取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては年齢、男女の差別はなく全職員が楽しく個々の能力が発揮出来る様に環境作りに取り組んでいる。	職員募集・採用については、性別や年齢を問わない。介護に関して、実務経験が無くても、安心して勤務出来る。定年はあるが、希望があれば、再雇用し、活躍している職員もいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	介護理念に「個人としての尊重」を記載していますので日々の生活の中で利用者との上下関係をなくす様に努めている。	年2回内部研修を行っている。 研修に参加出来なかった職員については、伝達研修で職員全員に周知している。外部研修も参加する事が出来る。行政が行っている研修計画を参考に職員の研修参加を促している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部の職員のみ外部研修を受講しているのが現状ですが職員には経験豊富な人材もいますので日々の業務内でのスキルアップを図れるように努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での研修や交流で意見交換を行う事で活動への向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から多くの情報や事情を聞き入れその後も利用者の状態を観察しながらコミュニケーションを図り信頼関係を築く様に努めている。。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の時に介護に対しての悩みや入居者の情報をお聞きしご家族の希望に添えながら生活していただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族とご本人が一番何を望んでいるのかを伺い実践に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が「出来る」「出来ない」事を把握し「出来る」事は積極的に作業に参加出来る様に促し「出来ない」事は「させる」ではなく入居者に心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来るだけ面会や外出の機会を多く持つようにはお願いしています。施設でのイベントや行事にもご参加するようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族だけではなくお知り合いや友人の方の面会も歓迎し多くの人と関わりを持つように努めている。	入居時に家族や本人から、これまでの生活歴や馴染みの人や場所について聞き取りを行っている。これまでの関係性を継続出来るよう支援を行っている。家族や知人などがいつでも訪問できるように、面会時間等の設定はなく、面会・来訪は自由にしている。家族と一緒に旅行ができる環境を整えたり、毎月1・15日に供物の買い物をする利用者の同行等の支援も行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調に配慮しながら出来るだけリビングで皆さんと一緒に過ごせる様に公平と平等を考えながらコミュニケーションに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族や身寄りのない人へのお世話や連絡は出来るだけ取る様にしていますが現状では厳しい時もあります。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の悩みや要望が直接口に来る関係を持ち困難な時はご家族に相談する。自分の立場を置き換え利用者に状況や状態が望ましいか検討に努めている。	利用者の気持ちや思いを尊重し、利用者の意向を否定しない支援を、全職員が常に心掛けている。たとえば、利用者の要望で、新聞や週刊誌の購入、好みのジュースの提供等を行っている。意思疎通の難しい利用者については、家族からの意向や意見を反映させ、利用者ひとりひとりに寄りそった支援を実践している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族から前歴や性格等を聞き取り今後の生活の活力として参考に出来る様に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の過ごし方や心身状態の把握など表情や反応、行動を抑制せず観察し個々にあった生活に協力出来る様に努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しをしている。状態変化に対応し介護計画を変更しご家族や主治医の意見も取り入れながら介護計画に努めている。	毎月モニタリングを行い、状態変化に合わせて介護計画の変更を行っている。職員だけでなく、本人、家族、医療関係者の意見も取り入れながら、利用者の現状に即した介護計画を作成している。職員共有SNSも活用し、周知・連携を深めている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やグループLINE等を活用しながら幅広く共有し		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズを把握し柔軟な対応をするようにしている。ニーズを発信できない利用者は精細観察をしご本人にとって一番良い状況になるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し何時でも利用出来る様に配慮している。近隣に元々地域資源がない利用者には新しい地域資源を提供している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日に定期往診があり個々の健康状態を主治医に報告し医師との連携に努めている。	毎週水曜日に訪問看護と主治医の定期往診があり、訪問看護記録と往診録を活用しながら、適切な医療が受けられるよう努めている。歯科についても施設からの連絡で、翌日に往診できる体制を整えている。毎週1回、看護師を配置し、健康管理に努めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	水曜日は訪問看護ステーションの健康観察と金曜日に2時間の看護師を採用し利用者の健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期に面会に行ったりご家族や病院との連絡と情報交換に努めてその後長期の入院になればご相談に応じる対応をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての話し合いや説明は同意書のもと事前確認をしていますが現時点では実践はない。	看取りの説明は入所時に行っている。また状態変化に合わせ、その都度、本人・家族等とともに話し合いを重ね、施設としてできることを説明している。現在103歳の看取り看護のため、毎日の訪問看護の導入を行い、在宅専門医や、医師との協力体制を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応は救急車を要請することになっているが原則。応急処置の訓練は実施できていないが想定問答を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し体制は整っている。運営推進会議では地域との協力体制を築くなど防災マニュアルも作成している。	年2回の避難訓練（1回は夜間想定訓練）を行っている。1回は運営会議開催時に行い、地域の方との協力体制を構築しようとしている。避難訓練時の記録写真も添付し、運営会議時に課題の検討の参考になっている。災害時の備蓄の準備はなかった。	災害時の備蓄については、早急に準備して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面の配慮だけでなく個人情報の言葉づかいなど一人一人を尊重し対応に努めている。利用者が弱者の立場に立たないように職員の言葉を観察している。	利用者の人格を尊重し、身体面の配慮だけでなく、言葉づかい等、一人一人の尊厳やプライバシーを尊重した対応を心掛けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかでご本人の思いを発信し人間関係作りをはなから否定しないように努めている。自己決定が出来ない利用者は、言動を潰さずに観察し意に沿うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や起床時間を利用者に合わせて生活している。日中はの過ごし方は個々のレベルに合わせて最大限に尊重し支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症程度で利用者は個人の趣味に合わせてお洒落を楽しんでいる。認知度の高い利用者は職員が気配りをしながらお洒落を楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が実践し下ごしらえや食器洗い等は利用者のレベルにあわせて支援し職員と共に昼食を楽しんでいただいている。	食事はすべて手作りし、利用者の好みや体調に合わせて特別食を臨機応変に提供できる体制をとっている。利用者の希望を取り入れたカレーの日やパンの日などバラエティに富んだ食事を楽しめる工夫をしている。食材の買い物に利用者と一緒にいき、利用者が買い物を楽しむことができるような工夫もしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録は常に記載し月に一度の体重測定も実施、摂取困難な利用者は職員が介助し皆さんの全量摂取に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は職員対応で口腔ケアを実施し口腔内のチェックも行い指導や介助に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のADLに合わせて排泄パターンを考え定期的な誘導や介助に努め記録を介護記録に残している。	日中はおむつをとり、トイレでの排泄を行っている。職員が一人一人の排泄パターンを共有し、意思表示が難しい利用者には、顔つきやしぐさを見逃さず、スムーズなトイレ誘導を行っている。利用者によってはウォシュレットを活用し、気持ちよく排泄してもらう工夫も行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため適度な運動を取り入れ便秘症の利用者は下剤を入れるなど主治医の指示に従っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個々の状態に合わせて週2回の入浴を実施し強制は避けるようにして浴槽内には入浴剤等を入れ皮膚管理も徹底している。	週2回の入浴を行い26日は「ふろの日」として、ゆず湯などの変わり風呂を楽しんでもらっている。入浴設定日を設けており、設定日以外は入浴の対応をしていない。	希望すればいつでも入浴ができる環境を整えることで利用者に安心感を与えるので、今後の工夫を期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が弱い利用者は個人のベットやソファで静養する時間を持てるようにしている。その他の利用者は積極的に日中は活動に参加出来る様に促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は随時ファイル化している。臨時薬はグループLINEや連絡帳を活用しながら全員が把握出来る様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を活かしながら役割や楽しみを持てるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症の程度で利用者からは特に要望はないが年間の行事に出来るだけ利用者が参加出来る様に実施しご希望の買い物があれば期待に沿える様に努めている。	利用者の希望で、散歩や買い物の同行支援を行っている。また年3回程行う外食イベントには、利用者だけでなく、家族等にも参加の声掛けをし、普段は行けないような場所に出かけ、利用者や家族に楽しんでもらっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行ったときはご本人に手渡し支払をしていただき個人のお金はご家族や本人の希望に応じて責任持ってお預かりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からの電話やお手紙は必ずご本人に取り次いでいる。ご本人の希望があれば電話は使用出来る様にしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関・廊下・居室等には季節感を出し毎日清潔に心がけ明るく落ち着いた空間をテーマに努めている。	職員や、利用者が手作りした季節感のある作品を玄関や廊下に配置し、楽しめる空間にしている。日中はブラインドを上げ、できるだけ自然光を取り入れ、居心地の良い空間になるよう努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・居間など思い思いに居場所を確保しいつでもくつろげる様に配慮しソファーや居間などで雑談する場面もみられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し出来る限り今まで使用してきた家具や寝具を使用し希望によっては新しい物を導入する様に努めている。	ベッド・タンスは施設で用意しているが、希望があれば持ち込みも可能である。冷蔵庫は施設の共用冷蔵庫を使ってもらっている。仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や生活環境には残存機能を十分に活かし出来るだけ無理のない範囲で施設生活を楽しく送って頂けるように心がけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関及び全ての職員が見やすい休憩室や調理室に絶えず掲示し、勤務のなかで日々共有し実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月2回の歌謡曲のボランティアの訪問があり、一緒に歌を唄い交流を深めている。また、予定が合えばふれあい市場への参加もしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、自治会長やご家族にこちらから助言や提案をさせてもらうことがある。また、協力体制の要望も伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の現状報告や問題などを報告し、会議の参加者からのアドバイスを参考に次ぎのサービス向上のステップに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席される、地域包括センターの職員や地区の民生委員に事業所の現状とケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を維持できるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアの禁止の対象となる具体的な行為を十分に理解し、常時出入り口は開放し、出入り自由に行っている。センサーでリスクを管理し、拘束をしないケアを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて定期的に高齢者虐待防止についてしっかりと学び、日常の業務の中でお互いを気をつけるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で権利擁護に関する制度については学んでいるが、現状は利用に至っていない。手続き等、ご本人一人では困難な場合は同行して支援をしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を十分説明したうえで、理解と納得をしていただいている。今年10月の消費税に関する改正書類を発送し、不安や疑問点などはないか尋ねたうえで家族の同意をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し家族の意見や要望を情報収集している。また、家族の面会時に個別に家族の要望や不安などに対応している。また、月1回の介護相談員の訪問を利用して利用者の意見や要望を反映できるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の勤務の中で職員からの意見や相談や要望を聞くようにしており、それをまとめ企画や提案などを現場に反映させている。また、職員共有のSNSを使用して報告や連絡を取り職員の意見を反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者から職員の勤務状況を把握し正社員化、給与改善など働きやすい環境づくりに努めている。また、労働時間を厳守し残業しない勤務を図っている。勤務シフトはできる限り本人の希望を尊重して作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関しては、年齢や性別の制限はなく、本人のやる気や人柄を重視して採用し、本人の能力が発揮できるような職場環境づくりをしている。また、施設外の研修にも配慮している。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>施設内外の研修を通して人権教育と啓発活動に取り組んでいる。また、利用者中で希望者には選挙の投票に同行し支援している。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外の研修の情報を回覧板にて提供して、研修の機会を促している。また、スキルアップ研修などの参加も配慮している。実践の現状は一部の職員に限られている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者または職員は同グループ内の施設間の職員の相互訪問は時々行われ、情報の共有や交流を通じた相互援助は行われている。その中でサービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時にご本人とご家族と話し合いをじっくりと行い、少しでも要望に応えるようなプラン作成に基づき、信頼関係づくりに努めて安心して過ごせる支援をしている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時にご家族と話し合う中で、希望や要望をくみ取り、困りごとや不安を取り除きできるだけ意に添えるように努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の面談時にご本人やご家族の要望希望をじっくりと聞き、他のサービスの利用の可能性を含めた対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でご利用者からも学びつつ、共に支えながら一緒に暮らすという思いで過ごしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的にご家族との外泊や外出は自由にしていただいている。ご家族訪問時には、ご本人の近況報告を行い、家族との絆を深めるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に馴染みの場所への外出支援に努めている。過去の友人、知人の来訪も時々あり、コミュニケーションを取っていただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で一緒に出来る事や個別に出来る事を把握し、レクリエーションや運動や音楽など様々な事を提供し、利用者同士が関わり合い楽しんでいただくようにしている。また、利用者同士のトラブルにも細心の注意をはらい、対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にあたっては、同グループ内外の施設の情報提供などの相談や支援が出来る体制を取り、必要に応じて支援するように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望や要望にはできる限り意に添うように努めているが、困難な場合はご家族とも相談し話し合い本人本位に検討、心掛けている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者のこれまでの生活歴については、職員全員がしっかりと情報収集し、把握してこれからの生活に活かしていくように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方はそれぞれだが、運動やレクリエーションなど希望に応じて提供し実施している。また居室にてゆっくりと過ごせる時間など自由に自分なりの過ごし方ができるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施している。職員・本人・家族・医療関係者と話し合い、共有のSNSも活用し報告、連絡、相談を行いその時の状態にあった最善の介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、細やかな介護ケアを記録し個々の利用者の変化などを職員間で話し合いながら、介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関連携や病院受診の送迎やお買い物同行など、ご本人やご家族の希望・要望にできるだけ添うよう柔軟な支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい交流を深めていき、ふれあい市場の参加を継続したい。また、その他の地域行事への参加も安全に積極的に支援したい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当主治医と週1回の往診時、各入所者の状態や病状を細かく情報提供を行って相談もできている。また、緊急時や、休診の時も早急に連絡ができる関係を築いている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師による日々の健康状態を細かく報告し、相談できている。また、訪問看護ステーションと連携し、手厚い看護が受けられている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、早期に退院できるように、医療機関や家族とも連絡を取り合っている。入院が長期化する場合は次の事を視野に入れて情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に確認書による説明で希望と同意を得ている。その時々健康状態の変化することを踏まえて、本人や家族との話し合いを重ねている。現在103歳の看取り介護を行っている状況である為、主治医や看護師と日々相談共有し、支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時はすぐに救急車を要請するようにしている。また緊急連絡網を使用して緊急連絡体制を取っている。応急手当や初期対応ができるように、定期的に研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通して通報や初期消火などの訓練を確実に実施している。地域機関や住民との協力体制を模索したい。防災マニュアルと緊急連絡網は策定している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を大切にして、プライバシーを尊重している。日々、個々の利用者との傾聴と丁寧な声かけを心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望や相談事などは、どんなことでも職員に気軽に話せる環境づくりを心がけている。また、自分で選択し、決められるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはご本人の自由を尊重し、希望にそって毎日その人のペースに合わせゆったりとした毎日が過ごせるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、月に1回の出張サービスを提供している。洋服や化粧やアクセサリーなど自分らしいおしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回全員でテーブルに着き食事を楽しめる環境づくりに努めている。また、食前はテーブルを拭いたり、食後は食器類を拭いたりと役割をもって一人一人の力を活かしている。毎週日曜日はカレーライスの日や毎週土曜日はパンの日などを提供し支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態に気配りをして、栄養バランスの摂れたメニューを提供している。食の細かい方には栄養補助飲料など提供して支援している。水分量も管理し一日を通じて確保できるように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはなるべく自分でしていただいている。細かく声かけをおこない口腔内の清潔保持に努めている。希望者には訪問歯科医の往診を利用し支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のトイレへの定期誘導にて自立に向けた支援をしている。昼間と夜間のリハビリパンツ・パット・オムツを使い分けている。また、必要な方にはポータブルトイレの使用も行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその影響を職員が理解し、個々に合わせた緩下剤の使用など主医師の指導の下に実施している。また、朝の体操や歩行訓練など毎日の運動をおこなっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個々の健康状態に合わせて入浴の実施に努めている。曜日や時間に関しては、全ての利用者の意に添えてはいない。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に個々に自由な休息を取っている。ベッド臥床もそれぞれされている。また昼食後の休憩も自由にいただいている。夜の就寝時間もそれぞれに自由に眠れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の冊子にまとめている。個々の処方内容の変更などを解りやすく、吞み忘れや誤薬がないように誰もが確認できる場所に保管している。また、与薬時は吞み込みの確認を徹底している。本人の状態や症状の変化に気をつけている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中に個々の好きな事、やりたい事（ゲーム・塗り絵・パズル・編み物・ドリル等）を取り入れ毎日実践している。また、役割（洗濯物たたみ・食器拭き・食材下処理等）を持ってもらい楽しく実施してもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設で年間を通して季節ごとの外出行事を行っている。（初詣・お花見・外食・季節花観賞・ピクニック等）また、ご家族と一緒に外泊や外出される方もいる為、お出かけ準備などの支援をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族管理が基本原則ではあるも、いないかたに関しては、施設管理者がきちんと出納帳で出し入れを管理している。ご本人へのお金の所持はしないも、欲しい物はいつでも購入できるように、支援をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々、常時自由にご家族や友人・知人と電話連絡や手紙のやり取りができるように対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下は季節感を感じる飾り付けをして、年間を通して快適な室温と居心地の良い空間をつくるよにしている。共用のトイレや入浴室は常に清潔に保ち安全に使用できるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファやを設置してゆっくりとくつろげるようにしている。また、外の景色を見ながら趣味や読書などができるフリースペースのテーブルも備え付けている。そして廊下には椅子を置きコミュニケーションの居場所を設けて工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の今までの使い慣れた家具や寝具など使用して、生活環境をなるべく変えないようにし、安全で居心地が良い工夫を心掛けている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の安全を第一に、居室内、廊下、トイレ、浴場などに手摺りを使用して自立した生活ができるようにしている。また必要な方にはポータブルトイレの使用も支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		